十二

六草庵

文政十三庚寅載

聖節

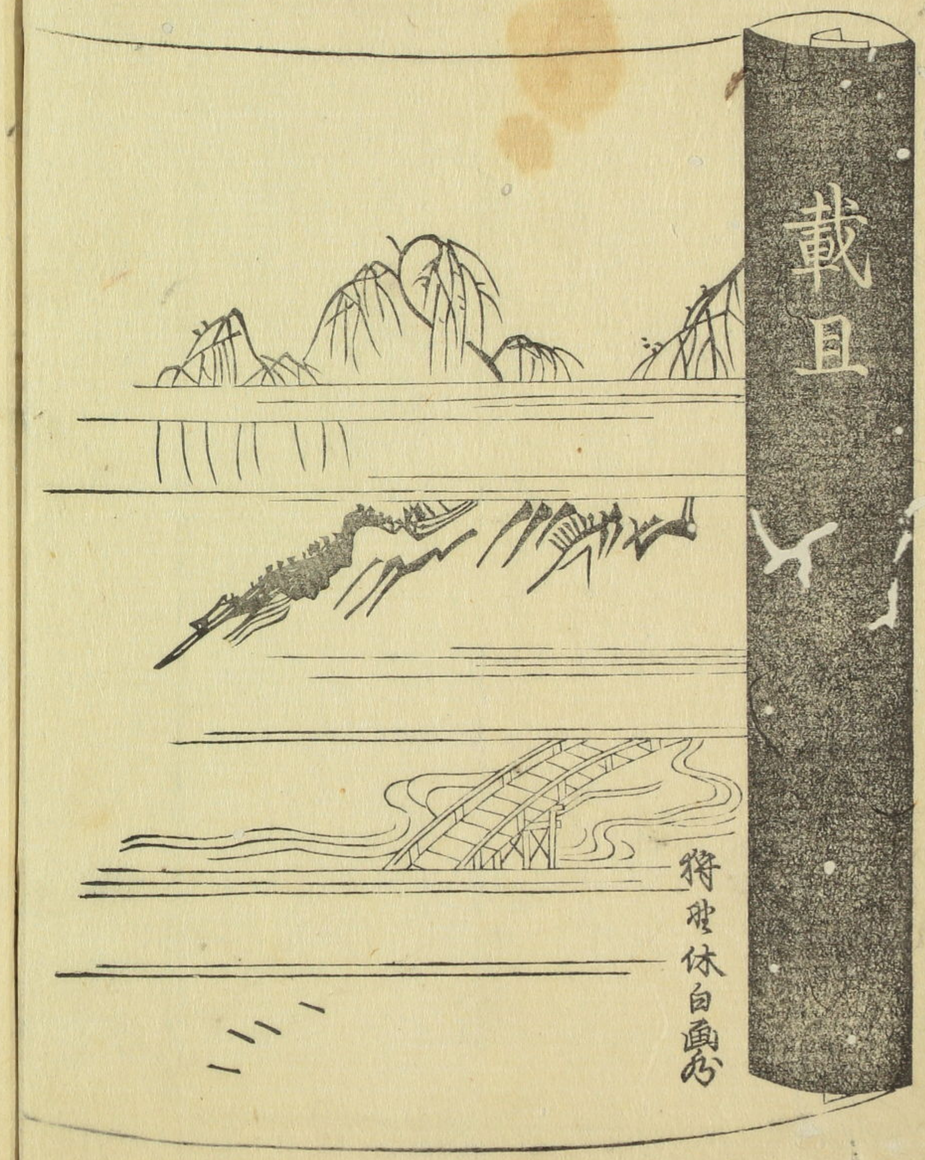
わゝ水や世をおもふ次

六草庵

春興

茶乃呂劣らぬ伊理

仝



題

古集の言葉

瓢集
後の惠子

百人一首

汁も餘も　秋風の　かすかさ
たゝけに　芭山

庶蘇いれよ浮の惠子れうりふま
ぬるあよ一汁も餘も　三ヶ　日　　瓜大
秋風の人〻を彩〻かさり業　　文雅
この〻され影の拾ひつ　初笑ひ　　涼芦
蓬業に向け百人の〻ひ影　　瓢長
七種やたゝけるこゝ蓬大根　　瓢我
芭山に雀も扶持ひりけの書　　乙人
　　麦丸

仝

山水や　いのてら　水の音　いのてら
山ひろし　田清り　たゆまぬ

山水やまの音誘ひしよりはちのはる　若彦
人のいろをのもの　海苔江戸はなし　寿熟
和尚といふもよし　水の音　子孫く
大きうてあらしこもり　侍海老　磐柳
山ひろし　松つくりそこに初りし　寄水
百姓うつや田清り　畑清り　豊北
たゆまぬにる太宰や　書　春松

仝

かみ屋
ほり紀ん　撫ぜは　花の香　大津修ん
おのつゝ　ひろし　水の　笑むや

塩　紀ん　ものを　侍一川　初恋ひす　皐月坊
の海ん　は　喰つゝ　春の嵐　海鹿　咀
元日や　紀て　侍りは　那の　如山　丸
筆墨の大津湾の　紀ひたり　桃岸
おのつゝ　地の　ゆ　鮮りう　臥言
元日や　ひろし　水の　ゆ　似紀　元丸
くけむ　や　恵方　一向　人通り　照桂

今

かさうん　仲四人　四のくもり　初ぢむ
かさうん　柏ちまん　浦〳〵の　花の月

かさうんまこんなりよ初日のか　雪泉子
つまつてほうの移り行　雪鳥
花の長堂るやふ四のくとりよる　桃李
相よむ〳〵際より書きつ日影　何有
雪風や初の新もてはものを忘き　秋橋
浦〳〵の浪体やそりもつ雲　蛾山
初雁花を門とふんさりり祭　燕石

今

ひさこ
釈子　かく　新りもの　何もあに
もの有　見れる　いろ〳〵

初神を釈子の井とまちきり　川柳
書初や水かく〳〵うむとの影　其声
もつ東風の京踊りものたを柳　風吐
去年の至八何もをぬにりされ表　千翠
元日やこ新とのの新りとこつ新　紀
天の間や志ほ〳〵いなつむ菓子の　川斎
いろ〳〵と扇向けりり咱れ表　花山
右橋

仝

小みの原
松苗乃　年〳〵や　北そらき　はる〳〵と
あ〳〵と　生ゑや　出つ〳〵りと

言二
茂竹
文キ
助耕
桂子女
瓢酔
東河

松苗の　植もあ〳〵さしに　市代の書
こし〳〵や　背も別る　門の雲
日のは〳〵め　遠く届くや　北そられ
そら〳〵と　知る初日よ　海の上
安〳〵と　さと〳〵　はる〳〵　煙うれ
牛初会　小苗ゆに　新りうち　茶うり
そり　空や　山つ〳〵と　記物て

仝

花を吉
花をうに
縄を集る　縁ゑ小〳〵　小ふうひ〳〵　名ハさ海〳〵
初夏の　松の香りも　雪空や　小ふうひ〳〵　清りうか　遠をめ
新ひり　名ハさ海〳〵　かゆ屋原　書を免や　縄を集る　松の公
そり　空や　縁ゑに　かゆた新　松ゆ　梅白も　造りうち　ゆ〳〵　男
花を〳〵　近ハ集　一ひ　清をり　屠

芋亮
茶好
岩辰
翠流
主十
蟬河
仙路

歳旦春興

雪際のかすみと孕む梢哉　雪泉子
鶯よりとほり鶯くしりの春霞　雪鳥
東雲れ鳴るも寒くん雛の巻　雪輦

、

左山の雪を抱てほむ貌哉　芋亮
寒〳〵梅〳〵一蕚に抱れ寒んを守　解咀
素の水鼻を拭〳〵て鶯の巣ひ　ゑ丸
豆伏る鶯よかくまし余寒哉　輝河

まれ行くり一雨ちれて素れ梅　茶好

、

仁和寺の青よめきしはるは面　桃嵐
年〳〵れすゑる云今よやうめの巻　元丸
初引よひき迄くまし夕日哉　卧高
花よ入〳〵往来のつくさんく哉　一姿
人中〳〵うけの届まし柳うれ　桂子女
寒鶯の岩にくさハのりしよ小西の素　紫麦
ゑ青ゆやこち〳〵紅〳〵ゑれ柳　仝

青柳よ月の影さへ春明うか　晴見
きの〳〵り〳〵只響れひとこの哉　仝

、

蓬屋をとをたもいとけさつかれ出　墨水
ゑめ柳枝のたゝまぬ代とかりし　仝

、

硯屋やのきにゝ移きこ雪二十山　梅扇
ゐる〳〵風やゆゝしもかしに達あむ　仝
山ゐるのこゝろの徳雪解水　智倪

喫のひと除宝〳〵すき　仝
如ま〳〵たる山の立きよ勝月　花井
陶の中ゑ〳〵　氷　仝
居りり立りり雛の柳し蓮　稲林
山茲にいりも多ゆる子ゑ　仝
はゝれ白茶白かゝ〳〵森いりり　呆亭
せ〳〵ゆきれ匂ひたゝりり蛙　仝
主を風やゑれ中ゝ〳〵む蕉　莫枝
春風やほゝ〳〵と樹の白〳〵　仝

こらしうや畠をのこる沼ちく　笑山
なる仕野や人の中うゝをのあり　仝

、

高〳〵梅の上うゝ明て四方の表　朝鳥
吹掛〳〵風の座うゝ蛙こゑ　仝
野宮人のりゝ水辺に宮きり　やふね
里代やうゝの上〳〵降る小雨　仝
二つ赤のほろのいろに茶業代　湖三
かゝむりや海の中ゝ人の来る　仝

紅梅に深る百ゝ〳〵おくきり　一木
素堂のとゝるゝ日ゝ花の雲　仝

、

梅ゝ香や名ゝ茶ゝの家白〳〵　理山

、

宮ミル中〳〵明〳〵を柳の葉もも　松杜

他郷春光

年ハやう〳〵ちかづくよ鳥の声　奥川又

蜂〳〵の花のけ深く簡ゝ中　梅卧

長刀に合羽のかゝる彫まぶし　仝　緑毛

四五文の銭よりもと蛾〳〵舞ひ　仝

舩引の道〳〵鴨や蚊まの蓑　仝　青蟇

ほの〳〵と梅の香や夕月あ　仝

かまもむ日や扇てたゝく馬の尻　仝　この笑

この春はもやもや紅葉とかすみ　仝

高〳〵梅〳〵軒を並へて森たりけり　矢川又　東雲
はる雨や大沼の中なる地蔵堂　仝
梅さくや蝋燭角のまゝ　仝　千鹿
青柳や色青ふかくなる枝色　仝
うぐいすや谷のうきす巣　仝　如舩
谷川の流れいとりこはるの月　仝
て鳥や暖寒新ひのはるかゝる　仝　素練
樣〳〵な蝶の樣なるつゝりけり　仝
なる風や大沼の一人の旅戸　仝　里月

松よりも土筆にうきあきの寸　仝
ゝの濃〳〵なるとこさ〳〵ぬるもの蛙　仝　東陌
菜刀しまふ小春よりも手よ岩　仝　仝
つゝ芋もなるや利休の椀冥日　仝　百川
春咲てなる〳〵なりぬ冥中炭　仝　仝
屬士ゝもむよ置りり福寿草　仝　蓋光
朽木〳〵雪のむ〳〵りたるロ　仝　仝
たる面や丁女に寿〳〵繪愛　仝　喜元
寄め咲〳〵第目のつゝ砂地代　仝　仝

門松の青葉〳〵里やはるの雨　矢川又　白圭
うゝひすや屋土たゝき御用船　仝　仝
春よしあゝ京廻のつゝ雛うる　仝　野川
雛棚へ手けさ沸〳〵や尉と姥　仝　仝
屋根替をせはしあるまいぞう蛙　仝　九外
これ程の桜よ家もあるかのり　仝　仝
春をてきたさ〳〵たる花ろべ　仝　素圭
ちり雛元まの耳にとまりけり　仝　仝
ひけほのや家の上州〳〵春の月　仝　蒼蘆

蝶花のや姫誠〳〵よきるたこ凡史　仝
、
はる雨や家も物さび唯あるし　仝　文雅
、
朝の蝶起て三つよりありよりの事　武中松　春松
山住をゝお茶〳〵ぶりい春の花　仝　涼雲
子兎の花水筋を流さしり　仝　仝
鶯の跡おのゝ〳〵眠れ柳うる　仝上ノ村　桃李
ちつ桜咲もひとり姫ちり　仝下岩屋　若彦

ちゝ奥と大きゐたる笠の戸を　　全串作　寿熙
雲とゐて松は舞りつゝ春　　全　字孝
笠をちゝぬといつや江の向　　全　蛍柳
ちゝ柳にちゝ春ゝ　　全　柳子支　花交
手鞠りハはつゝ男や梅のゝ　　全　種淡
奴凧笠もはのもゝこゝ代　　全
ちゝ竹川流竹のこゝ根代　　全
風音の春ゝ〳〵ゐ元旬ゝ　　全今泉　柳孝
押て春ゝ中におもひつ浦春　　全

日の裏とゐゝハ伸りゝ柳ゝ　　全下野国　寄水
烏羽玉の拔もちゝ春の明り代　　全長谷　豊北

、

冬持ゐる別傳ゐたる竹　　武神戸　言二
折れちゝ春ゝ風はつゝ白ゝゐめれ　　全ニ条　茂作
迎板に格子の身ゝ　　全昭和　文キ
ちゝ梅を助けゐ手にゐりはり　　全　助耕
笠とゐて魚の初めつはれ風　　全ヨ三　花三
さゝ笠山のゐ中ゝゐつり　　全

雪の逃て篠を吉にしり森　全手森　松雨
小ゆ〳〵うや篠〳〵雫にうめの蕾　全　可笑
山吹やかうまこの日る水の鹿　全

、

春の日をいなおひよ出たり凌霜附　全稲九　蒼吾
雪の胴よ風うやうるみる色　全谷高田　桃元
山彩のむら〳〵新る雪解れ　全

、

何の木のうち新武月よ垣根鍼一　越前福井　国声

、

鰈〳〵のあるる日うち風水新のうちう　越後今板　抱柳
沢鶯れ山根ほたるやうるれ風　全　撫巴
降ること〳〵新〳〵て初つきぬ初蛙　全　の水
春〳〵のおあ〳〵ふうて春月春　全

、

面白〳〵むかに出りうち蛙　全長屋　皐月坊

、

ふ〳〵ふ〳〵伐ふ〳〵む谷間や遅桜　出羽　冷月

白魚のかゝ[illegible]や水の泡　仝

、

うゝたのみセ木蹄[illegible]そ老ふ　矢岩城　川柳

小蹄子を梅ひる方へさしこ[illegible]　仝ある　其声

門雲を[illegible]我り里ちをきゝ[illegible]　仝　鬼白

[illegible]ん[illegible]ぬ日のさ野梅　仝　雨葉

雪のうゑ地を[illegible]ぬ月あ[illegible]　仝

元日のほのうに[illegible]つゝ山　仝　宣士

橋ゆれて柳よ風ハ[illegible]　仝　右橋

、

古池へ月を抱ひやあなうれ　仝南部[illegible]　[illegible]花人

小眠さやはるを吟ひ在禅堂　仝

、

若菜つむ人の足へり市神社　矢川侍　圭十

、

雲の初雪に枕ゝつゝ[illegible]　武本氏　常辰

案内を宿にはうきゝ川わ葉つゝ　仝　風吐

うゝひすの羽根をふる[illegible]よし　仝　駅我

、

はこ〻ろ〻生れ〻やうそ春の水　金子三〻　生賀

花ばなしつゆとり初めて若ちゝつ〻　仝　川邨

ち〻ゝ〻や地のはし〻ゝ松の夏　仝トミタ　花山

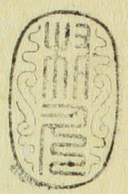
日のあ〻しにつれて〻のひ〻〻柳代　仝發句ノ次　閑翠

はのまゝにおろ〻ゝやる梅の月　仝

、

明かたり〻〻蛙のおそ泉き　上毛万場　曉〻

凍付〻〻戸も明ぬうつやうの茶　仝



木の芽ふ〻て稲ゝ〻ゝ〻り〻〻瞬ぐ　仝三崎　瓢豹

、

四月や春の明るき浮架神　仝山中　梅石

咲るものひとつも西ふ〻の脊のり〻　仝　瓢酔

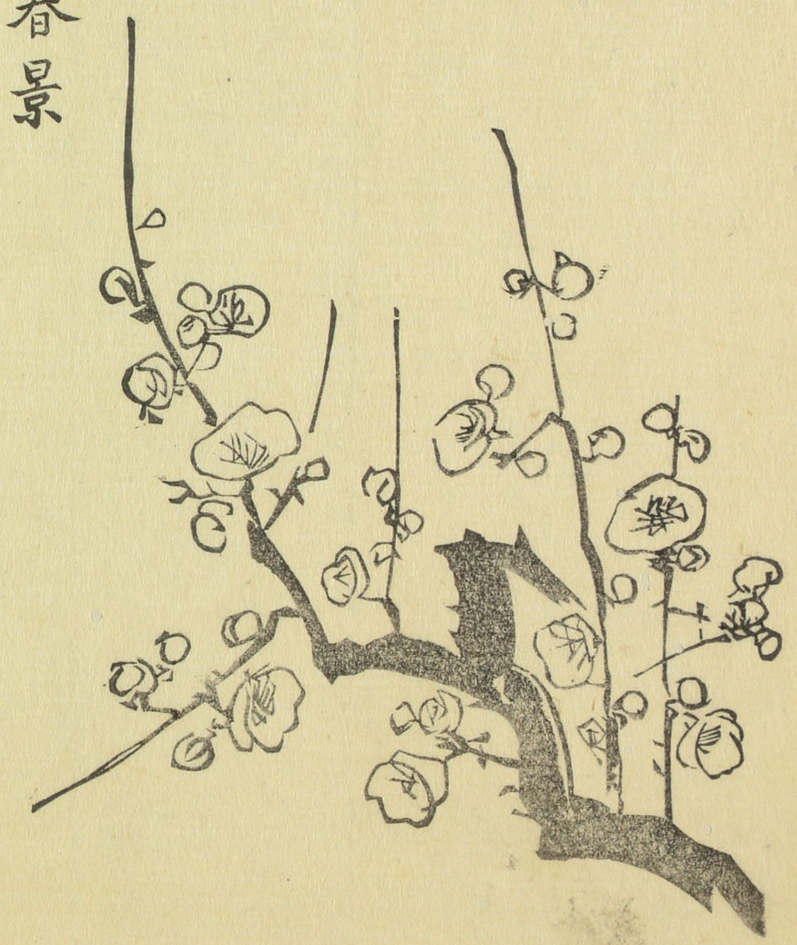
、

思猫の毛ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻湊の茶　紫衣　風二子

白晴きそ月の流るゝや秋さゝ　對月　何有
海岩打くゝ音に西むやゝ冬枯浪　仝　栽禍
岸篠の折ふしゝう冬のもゝ　仝　蛾山
乃智てまゝ蹇揺るる日哉　仝　遠石
一おもひ出てゝ夢ぬ　ほゝ穂ゝ　仝　岷山
麦の芽ふの戦ゝ　塚ゝ　ひゝ代　仝
梅より人ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　仝　鬱園
花のゆに年ぬものやゝ　仝

若水やゝ下ハ本の芽ふのひゝ　ゝ　ゝ　ゝ　朝鮮倭館　龜石
てゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　仝
文音
大あゝに折ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　對月　東指
よいもの〳〵蹊子に移ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　天保年　士峰
蔓やゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　仝　文月

春景



波うつ春日ばかりやみるとなく　萬里

一羽啼きたるうぐいすの林うれ
春面れたつ風ゆるやかや東山　何丸

柵の柳よ春をいまきりり　抱俊

春の梅　公石

春の梅さんさく彩の花より　護物

風谷

踏みそめの新そひくもの　蓋交

、

里も野も雪山の高光白し　雪雄

、

琵琶かりまゐる友来うり朧月　遠中泉

うゝろ〳〵に向いく〳〵蛙八　仝

文音

天の川くさの高〳〵なりよりより　鈍支

春詠　　呉雪

　　菫山

嘶や浜菜つむ日の海人乙女　青河

杖ルひけ子の日の松を老の友　老雪

さるの来る水鼠ん鳴く水鼠八　金鳩

枝川へ舳先の枝三の外八　波江

雪村ゝ出好くゝ柳うゝ　庵狸　青蓑

、

裏の水三つの市拾ひ浮めり　寄吉

孔きゝる高く拾りぬ柳ゝ　竹抱

図西よこのうゝや梅の蕾月　風俵

織出しハ雉子や柳のいろ邑　秀枝

、日にかくれ月にあらはれたる柳　蕉鹿

、梅よ月詩吟に欲はつきられけり　葛山

ゆふべや糸をたへてや雲の上　棠功

、青柳の落よ米吟に付るしが　徐松

雨月しの心婦ろつやうめよ月　亀友

さの詠を尊ふ咲けハつくしけれ　古口

山姥咲れも申してさける萩花　川風

、情一も婦り分け髪の柳かな　波静

、旅けたつや都へ路遠し雪の声　暇大

卯ちりに寉の鳴りし日永かな　涼戸

類ひ都や詠きたれはちる夕　瓢長

跡く留る花よ月日暮そこもりける　乙人

山水の里訓さそふ春の風　鴨桂

咲満てゝ櫻の花の影　仙路

、

春もすゝ根の源ゝ小松曳　對月　麦丸

蓬とゝみ一ゝ百よ年　栽住　雅屑

、

ゝ秋の又匂ひ立ゝや恋のかゝり　水之

若水よ年の田井整おもハゝし　風虚

きゝわゝん花の樽と水の音　上毛岩中　瓢子

守歳

清い春この山へいりつゝ年の日　雪泉子

、

松風のうへを宮ゐ岡見れ　解咀

来年のうめを宮と新まし　ゑ九

爆竹のかへるやまつの月　賢桂

大年や世よ吉きたなすの斗　桃彦

ゑゝはきやゝ松よりつけし雪窟　元九

ゑゝのおやまるれて待の多　卧高

節分や降るて吉つりのる　桂子女

、

正月うるにやゝ雪ぬ度し式　芋亮

油火のきえ四るや解りつり　紫麦

ゑゝはあや京明をさかゝ極の下　乙人

、

年の川催促されてかうきうり　久雅

庭よつむ雪うル食をゝ〜ゝ　川柳

沒てきをとゝめつとゝの布　其声

海川の名くセル時きてこの灯　右橋

年吉きゝてもスくるかよみ式　圭十

、

辭意も云ふに年をとるまゝ
除夜の鐘ゆの言上うねり竜　言二
こゝをひゝりとのかるゝや京仏変　茂仏
六十に初り詰たりこゝの書　文キ
果報こそ藤てゆとし年のその名誉　助耕
　　皐月坊

、

り年をつれく立り中住の戸　桃李
賜よ来るむゝしもゆりて古鶯　若彦

年浪ハちきりれ外を赤の松　寿恵
市よ出てなをの用ゆ古意　ゝら、
のこせしハ角伝ゝる景仏うり　景柳
彩まかうに表行ゆりの若水　哥水
りゝしのきハうゝうつれ樹のゆゝ　表松

、

人の言の上を師壹の色ゝり　豊兆
言ゝいゆる年や西日のをゝ　恵碎
用ハゝ拾むゝつ至く煙や掛　桃元

芋環やゆる寿を今賀する　風吐
ゑつこハ烏帽子ぬきりゝ掛　颯我

ことたり〳〵人もと侍しき　常辰
市人ハおもうゝ城へつ年の毛　其麥
ゝかさ〳〵に鍋の湯やの市　川柳
酒のゝて寄るいとけなきの市　花山
世ハあ〳〵もと花菜嗜て年の暮　梅石

燻掛てけ〳〵たに有りゝかゝる　何有
灯の蛾〳〵海さ生寄る岡太郎　我搗
ちゝ川よの濃〳〵後る提火哉　蛾山
雪国〳〵とりつて暮〳〵ことし哉　遊石

燻の墓詣ハ人は半のゝりり　蝦大
果か〳〵とり〳〵坂ゆりて年寄る　涼戸
燻たゝ〳〵おこ寄ゝ松ゝ　颯長
年の軒奥の唇並ひり祭　仙路

葉の花や後ゝ[illegible]

浦浪ハ長堤も高くてかつらぎ　麦丸

けふのきよハ麻の掛けし古屋　木之

大世日ひきよハ回し日暮の京　風虚

花ハ春とてきゝ[illegible]ぬ　鄙子

大尾

二三日の年よ　[illegible]　仙瓢

初代井筒の求めしあらん

当時持主 二代井筒